

つつじが丘保育園整備事業 (とよはし公共建築学生チャレンジコンペティション) が令和7年度「全建賞」を受賞しました！！ (インフラ整備の事業又は施策の部・建築部門)

授与された賞状と盾



評価ポイント

全国114組の学生から寄せられた提案の中から段階的に選考された建築アイデアをもとに、提案した学生自らが公共建築整備事業の企画・設計段階に主体的に参画する取組を実施。

東三河の地域産材を活用した木造・木質化と子どもの自発的な活動を促す多彩な保育空間を備えた施設を実現した点が評価を受けました。

全建賞とは

一般社団法人全日本建設技術協会が、優れた建設技術の創意工夫をこらした活用並びに事業の進め方やインフラの運用の工夫等により、秀でた効果の得られた若しくは得ようとする事業又は施策、及び国民の安全・安心確保に資する等の社会貢献活動や公共事業全般に対する理解の向上等に貢献する事業又は施策を選考し、これを実施した機関を表彰するものです。

- 対象事業 国、都道府県、市町村、機構・公社等の機関において実施され、地方協会長により推薦された事業(受託を含む)又は施策。
- 審査・選考 部門ごとに国土交通省の各専門の担当者による予備審査を経て、大学や民間の学識者を中心とした審査委員会により審査・選考。

(一社)全日本建設技術協会(略称「全建」)について

国・地方公共団体・機構公社等に勤務する建設技術関係者からなる公益団体。建設技術の進歩・発展及び住宅・社会資本の整備・管理を通して、より豊かで安全な社会の実現を目指し、特に、建設事業に携わる技術者に、住宅・社会資本整備等の事業実施における課題解決など、業務に直接役立つ情報提供などの事業を実施。

令和7年度全建賞各部門の受賞事業数

応募事業数：268事業

○ 異なる部門の事業が連携した取組の部：3事業

○ インフラ整備の事業又は施策の部

道路部門：21事業 河川部門：15事業 都市部門：5事業

住宅部門：1事業 建築部門：4事業 港湾部門：4事業

漁港漁場部門：1事業 鉄道部門：1事業

○ インフラ整備の事業又は施策の部《災害復旧・復興事業特別枠》

道路部門：3事業 河川部門：5事業 建築部門：1事業

漁港漁場部門：1事業

○ 安全・安心確保に資する等の社会貢献活動並びに公共事業全般に係る広報活動・調査研究の部

広報活動文化：4事業 調査研究分野：1事業

本市における過去の受賞事業

(受賞年度)

(事業名)

昭和57年度 豊橋市身体障害者総合福祉会館建設事業【建築部門】

平成15年度 豊橋市総合福祉センター「あいトピア」建設事業【建築部門】

19年度 豊橋市資源化センター余熱利用施設整備・運営事業【建築部門】

20年度 こども未来館整備事業【建築部門】

21年度 豊橋市保健所・保健センター及びこども発達センター等整備事業【建築部門】

29年度 豊橋市バイオマス資源利活用施設整備・運営事業【都市部門】

令和元年度 道の駅「とよはし」整備事業【道路部門】

「つつじが丘保育園整備事業・とよはし公共 建築学生チャレンジコンペティション」の取組み

については、

別紙の「受賞事業紹介記事」～全建の機関誌

『月刊建設／8月号（抜粋）』

または、市役所建築課ホームページをご覧ください。



問合先 建設部 建築課 課長補佐 松井（電話 0532-51-2571）



SDGs 未来都市
豊橋市



④8 豊橋市立つつじが丘保育園整備事業 (とよはし公共建築学生チャレンジコンペティション)

受賞機関 豊橋市

キーワード 地域の風土とともに育つ保育園、木造・木質化、学生コンペ

全建賞審査委員会の評価ポイント

全国114組の学生から寄せられた提案の中から段階的に選考された建築アイデアをもとに、提案した学生自らが公共建築整備事業の企画・設計段階に主体的に参画する取組により、東三河の地域産材を活用した木造・木質化と子どもの自発的な活動を促す多彩な保育空間を備えた施設を実現した点が評価された。

1. はじめに

本事業は、老朽化及び狭隘化が課題となっていた既設保育園の移転新築整備事業である。

0・1・2歳児を対象とした保育園の建築計画に際して、「地域の風土とともに育つ保育園」をテーマに、「とよはし公共建築学生チャレンジコンペティション」を実施した。全国の学生から寄せられた魅力的な建築アイデアを、実際の施設整備に反映させた。

2. 事業の概要

令和4年度に実施した「とよはし公共建築学生チャレンジコンペティション」は、施設計画への学生の主体的な参画機会を提供する取組として、次の3段階で構成した。

- ①建築アイデアの提案応募 114組
- ②建築計画検討ワーキングへの参加 4組
(提案アイデアを建築計画として具体化)
- ③建築計画提案者として設計実務に関与 1組

これらの取組を通じて、建築を志す若者に公共建築整備の魅力を伝え、将来、公共建築の営繕業務を担う人材の育成を目指した。また、これらの課題に真剣に向き合う学生たちの姿は、発注者である自治体営繕技術者にとっても、企画・設計段階における本来の役割や業務の魅力を再認識する契機となった。

事業経緯：

令和4年11月～令和5年9月 基本・実施設計
令和5年12月～令和7年2月 建設工事
令和7年4月 開園

3. 事業の成果

学生の柔軟な建築アイデアを生かし、本施設の特徴である「みんなのニワ」、「さんぽミチ」、「かくれニワ」を骨格とする基本プランが実現した。

保育室と園庭という屋内外の保育環境を、中間領域である「縁側」で緩やかにつなぐ配置により、子どもたちの自発的な活動を促し、天候に左右されず多様な保育を展開できる空間となった。



「みんなのニワ」を中心に回遊する「さんぽミチ」

構造面では、小屋組みを現し、軸組に真壁工法を用いたシンプルで開放的な木質空間とした。東三河の地域産材を中心に国産木材を使用し、地域の温暖な気候や身近な自然環境を積極的に取り込んだ。

また、高さを抑えた連続した切妻屋根の外観は、周辺の街並みと調和し、新たな景観を創出した。



地域の風景、周辺の街並みと調和する建物外観

4. おわりに

本施設は、乳幼児期子どもたちが初めて社会に触れる場となる。本施設で得られる豊かな体験が「地域の風土」の記憶として心に刻まれ、子どもたちを健やかに育む拠点となることが期待される。